

安全データシート (SDS)

製品名：新規アスファルト混合物

1. 製品及び会社情報

製品名：新規アスファルト混合物

製品コード、番号：①密粒度アスコン 13mm ②密粒度アスコン 20mm ③粗粒度アスコン 20mm
④開粒度アスコン 13mm ⑤細粒度アスコン ⑥密粒度ギャップアスコン 13mm
※ストレートアスファルト(中温化)を用いた混合物も含む。

供給者の会社名：株式会社ガイアテック 国分工場

連絡先：鹿児島県霧島市国分下井字塩濱 3213
電話番号:0995-46-6260 (受付時間:月曜日～金曜日 8:00～17:00)
FAX番号:0995-46-6977
メールアドレス:kensa-gt@gu.gaiatec.jp

会社名(製造元):*****

住所:*****

推奨用途及び使用上の制限：道路舗装用途

2. 危険有害性の要約

①ストレートアスファルト

※アスファルトは取り扱い時の状態(液体状態もしくは固体状態)によって危険有害性が大きく異なるため、ここでは条件による危険有害性を明記する。

GHS 分類

		常温時(固体状態)	溶融加熱時(液体状態)
物理化学的危険性	爆発物	区分に該当しない	区分に該当しない
	可燃性ガス	区分に該当しない	区分に該当しない
	エアゾール	区分に該当しない	区分に該当しない
	酸化性ガス	区分に該当しない	区分に該当しない
	高圧ガス	区分に該当しない	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない	区分に該当しない
	可燃性固体	分類できない	分類できない
	自己反応性化学品	区分に該当しない	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない	区分に該当しない
	自然発火性固体	区分に該当しない	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	区分に該当しない
	酸化性液体	区分に該当しない	区分に該当しない
	酸化性固体	分類できない	分類できない
	有機過酸化物	区分に該当しない	区分に該当しない

安全データシート (SDS)

製品名:新規アスファルト混合物

	金属腐食性化学品	分類できない	分類できない
	鈍性化爆発物	区分に該当しない	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分に該当しない	区分に該当しない
	急性毒性(経皮)	区分に該当しない	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:気体)	区分に該当しない	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分に該当しない	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	区分に該当しない	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分に該当しない	区分 2
	呼吸器感受性	分類できない	分類できない
	皮膚感受性	区分に該当しない	区分に該当しない
	生殖細胞変異原性	区分に該当しない	区分 2
	発がん性	分類できない	区分 2
	生殖毒性	分類できない	分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない	区分 3(気道刺激性)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない	区分 1(呼吸器系)
	誤えん有害性	区分に該当しない	区分に該当しない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	分類できない	分類できない
	水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない	分類できない
常温時(固体状態)	絵表示(ピクトグラム)	なし	
	注意喚起語	なし	
	危険有害性情報	なし	
	注意書き	なし	
	安全対策	なし	
	応急措置	なし	
	保管	なし	
	廃棄	なし	
	他の危険有害性	なし	

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

加熱熔融時 (液体状態)	絵表示(ピクトグラム)	
		
注意書き	注意喚起語	危険
	危険有害性情報	強い眼刺激 (H319) 呼吸器への刺激の恐れ (H335) 遺伝性疾患のおそれの疑い (H341) 発がんのおそれの疑い (H351) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(呼吸器系) (H372)
	安全対策	使用前に取扱説明書を入手すること。(P201) 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202) 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと(P260) ストレートアスファルトは加熱熔融時に硫化水素／一酸化炭素を発生する場合がある。取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264) ストレートアスファルトを使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270) 屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。(P271) 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面を着用すること。(P280)
	応急措置	吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること(P304+P340) 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338) ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313) 気分が悪い時は、医師の診察／手当てを受けること。(P314) 眼の刺激が続く場合: 医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313)
	保管	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233) 施錠して保管すること。(P405)
	廃棄	内容物、容器を国、都道府県、市町村の規則に従った場所に廃棄すること。(P501)
	他の危険有害性	なし

安全データシート (SDS)

製品名:新規アスファルト混合物

②ストレートアスファルト(中温化)

※アスファルトは取り扱い時の状態(液体状態もしくは固体状態)によって危険有害性が大きく異なるため、ここでは条件による危険有害性を明記する。

【加熱溶融時(液体状態)】

GHS 分類

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性:	区分 2
生殖細胞変異原性:	区分 2
発がん性:	区分 1A
生殖毒性:	区分 2
特定標的臓器毒性(単回暴露):	区分 3(気道刺激性)
特定標的臓器毒性(反復暴露):	区分 2(腎臓、肝臓、骨髄)
	区分 1(呼吸器系)

※上記に記述がない危険有害性については、区分に該当しない、又は分類できない。

GHS ラベル要素

シンボル	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	強い眼刺激 遺伝性疾患のおそれの疑い 発がんのおそれの疑い 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い 呼吸器への刺激のおそれ 長期にわたる、又は反復ばく露による腎臓、肝臓、骨髄の障害のおそれ 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器系の障害
注意書き	常温のストレートアスファルトは GHS 危険有害性分類に非該当であるが、加熱時に発生するミスト／煙／蒸気／ヒューム等には有害性が指摘されており、以下の注意書きとともに記載する。
安全対策	加熱溶融時に硫化水素／一酸化炭素を発生する場合がある。加熱溶融時に発生する煙、ガス、ミスト、蒸気、ヒュームを吸入しないこと。 室外で取り扱う場合は風上で作業を実施し、室内の場合は十分な換気を行うこと。 取扱後は手をよく洗うこと。 ストレートアスファルト(中温化)を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面を着用すること。

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

応急措置	:	吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 暴露又は暴露の懸念がある場合 : 医師の診断／手当てを受けること。 気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受けること。 眼の刺激が続く場合 : 医師の診断／手当てを受けること。
保管	:	指定数量 3,000kg 以上については指定可燃物に該当するため、市町村の条例に従い取り扱うこと。 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 施錠して保管すること。
廃棄	:	内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

【常温時(固体状態)】

GHS 分類

分類基準に該当しない。

※上記に記述がない危険有害性については、区分に該当しない、又は分類できない。

GHS ラベル要素

シンボル	:	なし
注意喚起語	:	なし
危険有害性情報	:	なし
注意書き	:	なし
予防策	:	なし
対応	:	なし
保管	:	なし
廃棄	:	なし

③炭酸カルシウム

重要危険有害性	現在のところ健康への影響は報告されていないが、多量に吸入、経口摂取すると咳、悪心、嘔吐等を起こす恐れがある。粉じんは眼、気道を刺激する。
特有の危険有害性	特にない
GHS 分類	分類基準に該当しない

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名または一般名	新規アスファルト混合物
別名	石油アスファルト混合物 Petroleum Asphalt, bitumen
成分および含有量	アスファルト(4.5%~7%) 碎石、砂など天産物 約 62% 炭酸カルシウム 約 3%
化学特性(化学式)	特定できない
官報公示整理番号	アスファルト 9-1720(化審法)、12-189(安衛法) 炭酸カルシウム 1-122(化審法)
CAS 番号	ストレートアスファルト 8052-42-4 炭酸カルシウム 471-34-1
危険有害成分	特定できない
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)	非該当
労働安全衛生法	第 57 条の 2 表示対象物(通知対象物) アスファルト
毒物劇物取締法	対象物ではない

化学名又は一般名	重量	化学式	CAS No.	官報公示整理番号	
				化審法	安衛法
ストレートアスファルト 又は ストレートアスファルト(中温化)	4.5~7%	特定できない	8052-42-4	(9)-1720	(12)-189
6 号碎石	約 36%	特定できない	天産物	—	—
7 号碎石	約 17%	特定できない	天産物	—	—
海砂	約 25%	特定できない	天産物	—	—
砕砂	約 11%	特定できない	天産物	—	—
炭酸カルシウム	約 5%	CaCO ₃	471-34-1	1-122	—

分類に寄与する不純物及び安定化 情報なし、天産物

添加物

労働安全衛生法 名称等を通知すべき有害物
(法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9) (政令番号第 168) (アスファルト)

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

4. 応急措置

①ストレートアスファルト

吸入した場合

新鮮な空気の場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。体を毛布等
でおおい、保温して安静を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。

呼吸が止まった場合及び呼吸が弱い場合は、衣服を緩め、呼吸気道を確
保した上で、人工呼吸を行う。

ストレートアスファルトは加熱時に硫化水素／一酸化炭素を発生する場
合がある。加熱熔融時に発生するミスト／煙／蒸気／ヒュームを吸入す
ると頭痛、めまい、吐き気等の症状を生じる場合がある。したがって、汚染
の可能性がある場所からできるだけ早く移動するとともに、そうした場所
に入る場合は空気呼吸器を装着する。

皮膚に付着した場合

大量の水でヒリヒリしなくなるまで冷やし、皮膚に付着したアスファルトは
取り除かないで、医師の手当てを受ける。

眼に入った場合

清浄な水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容
易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低 15 分間洗浄した後、
医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合

無理に吐き出さずに、速やかに医師の診断を受ける。口の中が汚染され
ている場合には、水で十分に洗うこと。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状
症状・損傷 吸入した場合

ストレートアスファルトは加熱熔融時に硫化水素／一酸化炭素を発生す
る場合がある。

硫化水素は、ばく露許容濃度(10ppm)以上吸入すると、頭痛、めまい、嘔
吐、下痢等の症状を起こす。400～700ppm では、30 分～1 時間のばく露で
急性死または後死が考えられ、700ppm 以上の硫化水素の吸入は、意識
喪失や死につながる呼吸器系統の麻痺を起こす。^{a)}

一酸化炭素は、中毒の目安として、<300ppm なら影響は少なく、<
600ppm では軽度の作用があり、<900ppm で中ないし高度の影響があ
る。1000ppm 以上になると危篤症状が現れ、1500ppm 以上では生命の危
険におよぶ。^{a)}

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

救助者は、必要に応じて適切な眼、皮膚の保護用具を着用する。

ストレートアスファルトは加熱熔融時に硫化水素／一酸化炭素を発生す
る場合がある。

医師に対する特別な注意事項

対症的に治療すること。

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

②ストレートアスファルト(中温化)

- 吸入した場合:
- ・新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。身体を毛布などでおおって保温しながら安静を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。
 - ・呼吸が止まった場合及び呼吸が弱い場合は衣服を緩め、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。
 - ・加熱時に一酸化炭素を発生する場合があります、吸入すると頭痛、めまい、吐き気等の症状を生じる場合があります。従って、汚染の可能性のある場所からは出来るだけ早く移動すると共に、そうした場所に入る場合には空気呼吸器を装着する。
- 皮膚に付着した場合:
- ・大量の水でヒリヒリしなくなるまで冷やし、皮膚に付着した製品は取り除かないで、医師の手当てを受ける。
- 眼に入った場合:
- ・大量の水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続け、医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合:
- ・無理に吐かせないで、速やかに医師の診断を受ける。口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗う。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候:
- ・ストレートアスファルトは硫化水素を含み、又、加熱時に一酸化炭素を発生する場合があります。
 - ・硫化水素は、暴露許容濃度(10ppm)以上吸入すると、頭痛、めまい、嘔吐、下痢等の症状を起こす。400～700ppm では、30分～1時間の暴露で急性死または後死が考えられ、700ppm 以上の硫化水素の吸入は、意識喪失や死につながる呼吸器系統の麻痺を起こす。^{a)}
 - ・一酸化炭素は、中毒の目安として、<300ppm なら影響は少なく、<600ppm では軽度の作用があり、<900ppm で中ないし高度の影響がある。1000ppm 以上になると危篤症状が現れ、1500ppm 以上では生命の危険に及ぶ。
- 応急処置をする者の保護:
- ・救助者は、必要に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用すること。
- 医師に対する特別な注意事項:
- ・今のところ有用な情報なし。

③炭酸カルシウム

- 吸入した場合
- 新鮮な空気のある場所に移し、鼻をかみ、水でうがいをする。
- 皮膚に付着した場合
- 多量の場合は医師の診断を受ける。
付着部または接触部を水で洗い流す。
- 眼に入った場合
- 直ちに多量の水で洗い流す。
異物感がある場合は医師の診断を受ける。

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

飲み込んだ場合

多量の水又は食塩水を飲ませ吐かせる。

多量の場合は医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

①ストレートアスファルト

適切な消火剤

霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡が有効である。

使ってはならない消火剤

棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

火災時の特有の危険有害性

硫化水素／一酸化炭素を発生する場合がある。

特有の消火方法

火元への燃焼源を断つ。初期の火災には、粉末、炭酸ガスを用いる。

大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。周囲の設備等に散水して冷却する。

火災発生場所の周辺には関係者以外の立入りを禁止する。

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用する。

自給式呼吸器および完全防護服。

②ストレートアスファルト(中温化)

特有の消火方法:

- ・火元への燃焼源を断つ。
- ・初期の火災には粉末、炭酸ガスを用いる。
- ・大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
- ・周囲の設備などは散水して冷却する。
- ・霧状の強化液、泡、炭酸ガス、粉末が有効である。
- ・棒状の水は火災を拡大し、危険な場合がある。
- ・硫化水素／一酸化炭素を発生する場合がある。
- ・消火作業は風上から行い、必ず保護具を着用する。

適切な消火剤:

使ってはならない消火剤:

火災時の特有な危険有害性:

消火を行う者の保護:

③炭酸カルシウム

消火剤

炭酸カルシウムは不燃性であり、周囲の火災に対応した消火剤を使用する。

6. 漏出時の措置

①ストレートアスファルト

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

非緊急対応者

応急措置

漏出エリアを換気する。

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。皮膚、眼との接触を避ける。

緊急対応者

保護具

適切な保護具を着用して作業する。

詳細については、第 8 項の「ばく露制御／個人保護」を参照。

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

環境に対する注意事項

下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないよう注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

浄化方法

ストレートアスファルトは機械的に回収する。ストレートアスファルトが下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。

除去方法

全ての着火源を取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。危険地域より人を退避させる。

危険地域の周辺には、ロープを張り、人の立ち入りを禁止する。

少量の場合は、土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させる。

大量の場合は、盛り土で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆いから容器に回収する。室内で漏出した場合は、窓・ドアを開け十分に換気を行う。

二次災害の防止策

漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。消火用器材を準備する。

その他の情報

物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

②ストレートアスファルト(中温化)

人体に対する注意事項:

・作業の際には消火用保護具を着用する。

環境に対する注意事項:

・下水道、河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないように注意する。

・漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で速やかに関係機関に通報する。

除去方法:

・全ての着火源を取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。

・危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺にはロープを張り、人の立ち入りを禁止する。

・少量の場合は、土・砂・おがくず・ウエス等に吸収させる。

・大量の場合は盛り土で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆い空容器に回収する。

二次災害の防止:

・漏洩物を速やかに完全撤去、清掃を行う。

・消火用器材を準備する。

③炭酸カルシウム

人体に対する注意事項

粉じんから身を守るために保護具を着用する。

粉じんの飛散を防ぐ。

保護具及び緊急時措置

上記の保護具とは、「8.暴露及び保護措置」の保護具を指す。

緊急時措置として、炭酸カルシウム自体は安全性の高いものであるが、周囲に拡散しないように素早く回収を行う。

環境に対する注意事項

回収物を排水溝や水路に流さない(作業場の外に流出させない)

安全データシート（SDS）

製品名：新規アスファルト混合物

回収

粉じんが立たないようにしながらほうきや掃除機で回収し産業廃棄物として廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

①ストレートアスファルト

取扱い	技術的対策	数量 3,000kg 以上については指定可燃物に該当する。法令上の取り扱いについては、市町村条例を参照のこと。 炎、火花または高温体との接触を避けるとともに、みだりにミスト・蒸気を発生させないこと。溶融したストレートアスファルトは、水と接触すると飛散するので水分が混入しないよう注意すること。
	安全取扱い注意事項	溶融したストレートアスファルトが皮膚に触れると、火傷をする恐れがあるので、作業中は、手袋、その他の保護具を着用すること。 屋内でストレートアスファルトを溶融する場合は、十分な換気を行うこと。 また、火気に注意すること。ストレートアスファルトは加熱時に硫化水素／一酸化炭素を発生する場合があるため、容器やハッチ（船、ローリー）に直接顔を近づけ、中を調べるようなことはしないこと。 また、硫化水素や一酸化炭素を吸い込まないように、風上で作業を実施すること
	接触回避	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触を避ける。
	衛生対策	ストレートアスファルトを使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 ストレートアスファルト取扱い後には必ず手を洗う。
保管	安全な保管条件	数量 3,000kg 以上については指定可燃物に該当する。法令上の取り扱いについては、市町村条例を参照のこと。 加温溶融した状態で保管する場合には、過加熱や雨水の混入に注意する。 常温で保管（袋詰め等）の場合は、直射日光の当たらない室内に保管する。 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との同一場所での保管を避ける。
	安全な容器包装材料	法令の定めるところに従う
	技術的対策	保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
	注意事項	熱、スパーク、火炎並びに静電気の蓄積を避ける。

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

②ストレートアスファルト(中温化)

取扱い	
技術的対策:	1. 数量 3000Kg 以上については指定可燃物に該当する。法令上の取り扱いについては、市町村条例を参照のこと。 2. 炎、火花または高温体との接触を避けるとともに、みだりにミスト・蒸気を発生させないこと。 3. 溶融したものは、水と接触すると飛散するので水分が混入しないよう注意すること。
注意事項:	1. 溶融したものは皮膚に触れると火傷をする恐れがあるので、作業中は、手袋やその他の保護具を着用すること。 2. 屋内で溶融する場合は、十分な換気を行うこと。また、火気に注意すること。 3. ストレートアスファルト(中温化)は硫化硫黄を含み、また加熱時には一酸化炭素を発生する場合があるため、容器やハッチ(船・ローリー)に直接顔を近づけ、中を調べるようなことはしないこと。また、硫化水素や一酸化炭素を吸いこまないように、風上で作業を行うこと。
安全取扱い注意事項:	・ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触を避ける。
保管	
安全な保管条件:	1. 数量 3000Kg 以上については指定可燃物に該当する。法令上の取り扱いについては、市町村条例を参照のこと。 2. 加温状態で保管する場合には、異常発熱や雨水の混入に注意する。常温で保管する場合は、直射日光の当たらない室内に保管する。 3. 溶融したものは、水と接触すると飛散するので水分が混入しないよう注意すること。
適切な技術的対策:	・保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
安全な容器包装材料:	・法令の定めるところに従う。

③炭酸カルシウム

取扱い	
技術的対策	粉じんを立たないように作業を行うことが望ましい。もし、粉じんが立つようならば、保護具を着用して作業を行う。
局所排気・全体換気	屋内作業場で使用する場合は粉じんが立たないように集塵機等を取り付ける。
注意事項	破袋防止のため、投げ積みしない。 荷崩れしないよう積み重ねは丁寧に行う。 吸湿させないように、地面に直置きしない。(パレットの上に置く等の措置をとる。)

安全データシート（SDS）

製品名：新規アスファルト混合物

保管		
技術的対策	紙袋やフレコン等に包装されている場合は、湿気や水濡れ厳禁のため屋内にパレット積みにて保管する。 サイロ等に保管する場合は、濡れないように除湿や禁水対策をとる。	
混触禁止物質	酸及び酸性物質	
保管条件	雨等に濡れないように屋内に保管する。	
	水気がない場所や湿度が低い場所に保管する。	
	700℃を超えるような高温になる場所に保管しないこと。	
	酸、アルミニウム、アンモニウム塩から離しておく。	
容器包装材料	できるだけ透湿性のない材質	

8. ばく露防止及び保護措置

①ストレートアスファルト

管理濃度		ストレートアスファルト:設定されていない。 労働安全衛生法 作業環境管理濃度(2021 年 4 月改正) ⁿ⁾ 硫化水素:1ppm
許容濃度	日本産衛学会 ⁱ⁾ (2021 年度版)	ストレートアスファルト:勧告値なし 硫化水素:5ppm 一酸化炭素:50ppm
	ACGIH ^{b)} (2021 年度版)	・時間加重平均(TWA)値 0.5mg/m ³ (Asphalt fume as benzene-soluble aerosol) 1ppm(硫化水素として) 25ppm(一酸化炭素として) ・短時間ばく露限界(STEL)値 勧告値なし(Asphalt fume as benzene-soluble aerosol) 5ppm(硫化水素として)
設備対策		屋内作業場は、防爆タイプの排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
保護具	呼吸用保護具	換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。
	手の保護具	耐熱性、及び耐油性保護手袋
	眼、顔面の保護具	安全メガネ等の適切な保護具を着用する。
	皮膚及び身体の保護具	不浸透性の保護衣等の適切な保護衣を着用する。
特別な注意事項	環境へのばく露の制限と監視	環境への放出を避けること。

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

②ストレートアスファルト(中温化)

- 設備対策:
- ・屋内作業場は、防爆タイプの排気装置を設置する。
 - ・取扱い所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
- 管理濃度:
- ・設定されていない。
 - ・労働安全衛生法 作業環境管理濃度(2021 年 4 月改正)
1ppm(硫化水素として)
- 許容濃度:
- ・日本産業衛生学会(2021 年度版)
勧告値なし(ストレートアスファルトとして)
5ppm(硫化水素として)
50ppm(一酸化炭素として)
 - ・ACGIH(2021 年度版)
時間荷重平均(TWA)値
0.5mg/m³(アスファルトフューム)
1ppm(硫化水素として)
25ppm(一酸化炭素として)
短時間ばく露限界(STEL)値
勧告値なし(アスファルトフューム)
5ppm(硫化水素として)

保護具

- 呼吸用保護具:
- ・状況に応じて呼吸用保護具等を使用する。
- 手の保護具:
- ・状況に応じて耐油性保護手袋等を使用する。
- 目の保護具:
- ・状況に応じて保護眼鏡等を着用する。
- 皮膚及び身体の一部の保護具:
- ・状況に応じて保護衣を使用する。
- 特別な注意事項:
- ・現在のところ有用な情報なし。

③炭酸カルシウム

- 管理濃度:
- ・ $E = 3.0 / (1.19 Q + 1)$
E : 管理濃度(mg/m³)
Q : 当該粉じんの遊離ケイ酸含有率(%)
- 許容濃度:
- ・日本産業衛生学会勧告値(2006 年度)
総粉じん 4mg/m³
吸入性粉じん 1mg/m³
 - ・ACGIH(TLV)(2006 年度)
TWA 5mg/m³
- 設備対策:
- ・屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、又は局所排気装置を付ける。
 - ・この物質を取扱う作業所には洗眼器・洗面設備を設置すること。

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

保護具

- | | |
|-------------|--------------|
| 呼吸用保護具: | ・防塵マスク |
| 手の保護具: | ・保護手袋 |
| 目の保護具: | ・ゴーグル形保護眼鏡 |
| 皮膚及び身体の保護具: | ・作業服、作業靴、作業帽 |

衛生対策 取扱後はよく洗顔・手洗い・うがいを行うこと。

9. 物理的及び化学的性質

①ストレートアスファルト

A. 物理的状态

物理状态	固体
色	黒色
臭い	データなし
融点	データなし
凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	≥350℃
可燃性	不燃性
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	260℃(COC)
自然発火点	約 480℃
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	40℃で固体のため測定不能
溶解度	水に不溶
n-オクタノール／水分配係数(log 値)	>6
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	1-1.07g/cm ³ (15℃)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
軟化点	約 50℃(環境法: JIS K 2207)

②ストレートアスファルト(中温化)

物理的状态

物理状态:	固体
色:	黒色
臭い:	データなし

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

物理的状态が変化する特定温度/温度範囲	
融点/凝固点:	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲:	350℃以上
可燃性:	不燃性
爆発限界/可燃限界:	上限 データなし 下限 データなし
引火点:	320℃
自然発火点:	約 480℃(参考値)
分解温度:	データなし
pH:	データなし
動粘性率:	40℃で固体のため測定不能
溶解度:	水に不溶
n-オクタノール/水分配係数 (log 値):	データなし
蒸気圧:	データなし
密度及び/又は相対密度:	1.03g/cm ³
相対ガス密度:	データなし
粒子特性:	データなし

③炭酸カルシウム

外観等:	白色微粉末
臭気:	無臭
比重:	2.7
溶解度:	水に難溶
分解温度:	900℃ (カルサイト)

10. 安定性及び反応性

①ストレートアスファルト

反応性	強酸化剤との接触を避ける。
化学的安定性	常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
危険有害反応可能性	燃焼の際は、煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。
避けるべき条件	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
混触危険物質	強酸化剤との接触を避ける。
危険有害な分解生成物	燃焼の際は、煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。

②ストレートアスファルト(中温化)

化学的安定性:	・通常の取扱い条件においては安定である。
反応性、混触危険物質:	・強酸化剤との接触を避ける。

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

避けるべき条件:	・ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないように注意する。 静電放電、衝撃、振動などを避ける。
避けるべき材料:	・現在のところ有用な情報なし。
危険有害反応可能性、 危険有害な分解生成物な分解生成物:	・燃焼の際は、煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。 ストレートアスファルト(中温化)の加熱中あるいは高温貯蔵時に硫化水素、 一酸化炭素が発生する可能性がある。
その他:	・現在のところ有用な情報はなし。

③炭酸カルシウム

安定性	安定
危険有害反応可能性	酸と反応して二酸化炭素を発生する。また高温にて二酸化炭素を発生する。
混触危険物質	酸類
危険有害性のある分解生成物	酸化カルシウムおよび二酸化炭素

11. 有害性情報

①ストレートアスファルト

急性毒性(経口)	区分に該当しない。急性毒性は低いと推定される。 ^{c)} 減圧蒸留残渣油として、ラット LD50 5,000mg/kg 以上 ^{k)}
急性毒性(経皮)	区分に該当しない。急性毒性は低いと推定される。 ^{c)} 減圧蒸留残渣油として、ウサギ LD50 2,000mg/kg 以上 ^{k)}
急性毒性(吸入:気体)	GHS の定義における個体であるため、区分に該当しない。
急性毒性(吸入:蒸気)	GHS の定義における個体であるため、区分に該当しない。
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。 減圧蒸留残渣油として、ラット LD50 2,000mg/m ³ 以上 (Exposure time:4.5h) ^{k)}
皮膚腐食性/刺激性	データ不足のため分類できない。 なお、減圧蒸留残渣油として、ドレイズテストの結果、軽度の刺激性が確認されている。 ^{k)} ただし加熱された溶融アスファルトとの接触は火傷の恐れがあるので注意すること。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	常温におけるほぼ固体状態での有害性に関するデータは確認できない。職業ばく露において、ストレートアスファルトの蒸気による結膜炎の報告や、眼刺激性が複数報告されていることから区分 2 とした。減圧蒸留残渣油として、ドレイズテストの結果、軽度の刺激性が確認されている。 ^{k)} アスファルト蒸気/ヒュームによる結膜炎、眼刺激性が複数報告されているが、回復性のものであったとの記載がある。 ^{p)} ^{q)} 溶融アスファルトから発生するガスは、呼吸器系や眼の粘膜を刺激する。

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

呼吸器感作性	分類できない。 現在のところ有用な情報なし。
皮膚感作性	分類できない。 現在のところ有用な情報なし。なお、減圧蒸留残渣油については、モルモットに対する皮膚感作性試験において陰性であったとの報告がある。 ^{a)}
生殖細胞変異原性	アスファルトヒュームまたはアスファルトヒューム凝縮液、アスファルトペイント等による各種試験結果があり、生殖細胞変異原性については陽性／陰性のデータが存在する。 ^{o) p) q) r)} しかしながら in vivo 体細胞変異原性試験／体細胞遺伝毒性試験の陽性結果、並びに in vitro 変異原性試験の陽性結果、さらにストレートアスファルトは変異原性があるとの記載 ^{p)} を総合的に考慮し区分 2 とした。
発がん性	道路舗装等のストレートアスファルトによる長期間に及ぶ「アスファルト・エミッション」による職業ばく露について IARC は、「グループ 2B」(発がん性があるかもしれない)に分類している。 ^{o)} なお IARC は「アスファルト・エミッション」を「加熱され気化した物質及び気体、及び気体となったアスファルトが空気中で凝集し、小さな粒となり雲状になったヒューム」と規定し、「道路舗装」を「アスファルト混合物製造、運搬、舗設に関わる作業」、「職業ばく露」を「作業者が 1 日に 4～9 時間程度を長期間にわたりさらされること」と規定している。 EU CLP 規則(1272/2008/EC)付属書 VI Table 3.1 および Table 3.2 に記載されていない。(有害性として分類されない)
生殖毒性	分類できない。データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	黒ネズミに対し、針入度級アスファルトを 3 ヶ月毎に 200mg 皮下注射を行ったが、解剖所見で皮膚腫瘍は見られなかった。 ^{d)} アスファルトヒュームに含まれる硫化水素／一酸化炭素により気道刺激性があることが知られている ^{p) q)} ことから区分 3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	常温におけるほぼ固体状態での有害性に関するデータは確認できない。 アスファルトヒュームの吸入試験(マウス、6～7h/日、5 日/週で 21 ヶ月)で気管浸潤、気管支炎、肺炎、膿瘍、繊毛損失、上皮萎縮及び皮膚肥厚が認められた。 ⁱ⁾ ヒトにおいて、ヒュームの吸入経路で鼻炎、口咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、ヒュームの経皮暴露では皮膚炎、ざ瘡(にきび)様の病変、軽度角化症が報告されている。また実験動物において、マウスを用いた吸入毒性試験において呼吸器に影響がみられているが、ばく露濃度の記載がなく分類に用いることはできない。 ヒトにおいて呼吸器系に影響がみられていることから区分 1(呼吸器系)とした。 ^{p) r)}

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

誤えん有害性

区分に該当しない。

アスファルトは炭化水素化合物以外に、元素分析により微量ないし僅かに硫黄、酸素、窒素、金属バナジウムなどを含む^{o)}との記述より、純粋な炭化水素の混合物でないこと、並びにヒトで吸引性呼吸器有害性を示したとの事例がない。また、動粘性率が $8,000\text{mm}^2/\text{s}$ 以上であることから、区分に該当しないとした。

②ストレートアスファルト(中温化)

急性毒性:

・急性毒性は低いと推定される。

・アスファルトとして、

・経口 ラット LD50 5000mg/kg 以上。

経皮 ウサギ LD50 2000mg/kg 以上。

(石油系炭化水素)

経口 ラット LD50 5000mg/kg 以上。

経皮 ウサギ LD50 2000mg/kg 以上。

吸入(ミスト) ラット LC50 5mg/kg 以上。

皮膚腐食性/皮膚刺激性:

・ドレイズテストの結果は刺激性なし。ただし加熱された溶融アスファルトとの接触は火傷の恐れがあるので注意すること。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:

・ドレイズテストの結果、軽度の刺激性が確認されている。

・アスファルト蒸気/ヒュームによる結膜炎、眼刺激性が複数報告されているが、回復性のものではあったとの記載がある。^{p) q)}

・溶融アスファルトから発生するガスは、呼吸器系や眼の粘膜を刺激する。

呼吸感作性:

・現在のところ有用な情報はなし。

皮膚感作性:

・モルモットに対する皮膚感作性試験結果で陰性との報告あり。

生殖細胞変異原性:

・アスファルトヒュームまたはアスファルトヒューム凝縮液、アスファルトペイント等による各種試験結果があり、生殖細胞変異原性については陽性/陰性のデータが存在する。^{o) p) q) r)}

・しかしながら in vivo 体細胞変異原性試験/体細胞遺伝毒性試験の陽性結果、並びに in vitro 変異原性試験の陽性結果、さらにストレートアスファルト(中温化)は変異原性があるとの記載^{p)}を総合的に考慮し区分 2 とした。

・(石油系炭化水素)

ラットを用いた細胞遺伝学的試験(体細胞 in vivo 変異原性試験)における異常細胞が増加した。

職業暴露を受けたヒトの末梢血リンパ球で染色体異常の頻度増加が観察された。

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

発がん性:

- ・(石油系炭化水素)
- ・IARC では、未精製またはグループ 1 に分類され、ACGIH の提案もほぼ同様の分類と言える。
- ・EU による評価では、発がん性カテゴリ-2(DMSO 抽出 3%以上)「人に対して発がん性であるようにみなされる物質」(人に対してがんを発生させたとの報告はないが、長期間(2~3 年)の動物実験によって、動物に皮膚がんを発生させることが報告されている物質)。

生殖毒性:

- ・(石油系炭化水素)
- DAE(Distillate Aromatic Extracts)のラットにおける発育試験において、生殖毒性を発生したとの結果のリードアクロスから生殖毒性と推定される。

特定標的臓器(単回ばく露):

- ・黒ネズミに対して針入度級アスファルトを 3 ヶ月毎に 200mg 皮下注射したが、解剖所見では皮膚腫瘍は見られなかった。
- ・アスファルトヒュームに含まれる硫化水素/一酸化炭素により気道刺激性があることが知られている。 ^{p) q)}

特定標的臓器(反復ばく露):

- ・常温におけるほぼ固体状態での有害性に関するデータは確認できない。
- ・アスファルトヒュームの吸入試験(マウス、6~7h/日、5日/週で21ヶ月)で気管浸潤、気管支炎、肺炎、腫瘍、繊毛損失、上皮萎縮および皮膚肥厚が認められた。
- ・ヒトにおいて、ヒュームの吸入経路で鼻炎、口咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、ヒュームの経皮暴露では皮膚炎、ざ瘡(にきび)様の病変、軽度角化症が報告されている。また実験動物において、マウスを用いた吸入毒性試験において呼吸器に影響がみられているが、ばく露濃度の記載がなく分類に用いることはできない。
- ・ヒトにおいて呼吸器系に影響がみられていることから区分 1(呼吸器系)とした。 ^{p) r)}
- ・(石油系炭化水素)
- ・OECD408 に基づくラットへの 90 日間の試験において、腎臓、骨髄、肝臓、胃、胸腺に影響を与えたとの報告がある。
- ・動粘性率が 8000mm²/s 以上であるので区分外。

誤えん有害性:

安全データシート（SDS）

製品名：新規アスファルト混合物

- その他：
- ・ストレートアスファルト(中温化)は通常加熱されているため、皮膚や眼に触れると火傷を生じる。

・高温時に発生するガスを吸入すると、嘔吐やめまいを起こすことがある。

・ストレートアスファルトは硫化水素を含み、加熱時に一酸化炭素を発生する場合があります。

・硫化水素は、暴露許容濃度(10ppm)以上吸入すると、頭痛、めまい、嘔吐、下痢等の症状を起こす。400～700ppm では、30 分～1 時間の暴露で急性死または後死が考えられ、700ppm 以上の硫化水素の吸入は、意識喪失や死につながる呼吸器系統の麻痺を起す。

・一酸化炭素は、中毒の目安として、＜300ppm なら影響は少なく、＜600ppm は軽度の作用があり、＜900ppm で中ないし高度の影響がある。1000ppm 以上になると危篤症状が現れ、1500ppm 以上では生命の危険におよぶ。

③炭酸カルシウム

- 急性毒性：
- 皮膚腐食性・皮膚刺激性：
- 眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性：
- 呼吸器感作性又は皮膚感作性：
- 生殖細胞変異原性：
- 発がん性：
- 生殖毒性：
- 特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)：
- 特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)：
- 吸引性呼吸器有害性：
- ・経口 ラット LD50 5000mg/Kg 超

・ウサギ 500mg/24 時間 超

・ウサギ 100mg/24 時間 超

・データなし

・データなし

・データなし

・データなし

・データなし

・データなし

・データなし

12. 環境影響情報

①ストレートアスファルト

生態毒性	水生環境有害性 (短期／急性)	分類できない。データなし。
	水生環境有害性 (長期／慢性)	分類できない。データなし。

安全データシート (SDS)

製品名:新規アスファルト混合物

残留性・分解性	残留性	アスファルトは常温で蒸発しないが、道路舗装や屋根防水等の工事のために加熱する際、ヒュームを発生する。発生したヒュームはすぐに凝縮、沈降して土壌に吸着する。ヒュームの揮発性成分は大気中のヒドロキシラジカルと反応する。水中では、アスファルトは分散性は乏しく、浮くか沈むかである。土壌中では移動性はない。 ^{m)}
	分解性	アスファルトの水生環境における生分解性の研究例は見当たらない。しかし、数百年にわたって道路舗装や屋根防水に利用してきた経験から、アスファルトは明らかにいつまでも持続する(分解しない)物質であり、生分解性がないことが特長でもある。 ^{m)}
生体蓄積性		データなし。アスファルトの構成成分の log Kow は 6 以上なので生体蓄積性があると判定されるが、実際には、極めて水に難溶であり、このような高分子量の物質が水中生物の体内に取り込まれることは考えにくい。 ^{m)}
土壌中の移動性		土壌中では移動性はない。 ^{m)}
オゾン層への有害性		データなし。分類できない。
②ストレートアスファルト(中温化)		
生体毒性:		・現在のところ有用な情報はなし。
残留性:		・アスファルトは通常の温度では蒸発しないが、道路舗装や屋根葺きの前に加熱する際、フュームを発生する。発生したフュームはすぐに凝縮、沈降して土壌に吸着する。フュームの揮発性成分は大気中のヒドロキシラジカルと反応する。水中では、アスファルトは分散性は乏しく、浮くか沈むかである。土壌中では移動性はない。
分解性:		・アスファルトの水生環境における生分解性の研究例は見当たらない。しかし、数百年にわたって道路舗装や屋根葺きに利用してきた経験から、アスファルトは明らかにいつまでも持続する物質であり、生分解性がないことが特長でもある。
生体蓄積性:		・極めて水に難溶であり、高分子量であるため、水中生物の体内に取り込まれるとは考えにくい。
土壌中の移動性:		・土壌中での移動性はない。
オゾン層への有害性:		・情報なし

③炭酸カルシウム

生体毒性:	・データなし
残留性・分解性:	・データなし
生体蓄積性:	・データなし
土壌中の移動性:	・データなし

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

13. 廃棄上の注意

①ストレートアスファルト

残余廃棄物

燃焼する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼または爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うとともに、見張り人をつける。又は自治体の定めるところに従う。大量の処理は、知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し処理する。

海、河川、湖、その付近及び排水溝に投棄してはならない。 その他関係法令の定めるところに従う。

汚染容器及び包装

内容物を完全に除去した後に産業廃棄物として処理する。

②ストレートアスファルト(中温化)

残余廃棄物:

- ・燃焼する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼または爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。
- ・自治体の指示により、知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し処理する。
- ・海、河川、湖やその付近、排水溝に投棄してはならない。
- ・その他関係法令の定めるところに従う。

③炭酸カルシウム

残余廃棄物

炭酸カルシウムを産業廃棄物とし、許可を得た廃棄物処理業者に委託契約して処理をする。

汚染容器及び包装

紙袋やラップ等は、残余廃棄物と同様に処理する。

安全データシート (SDS)

製品名：新規アスファルト混合物

14. 輸送上の注意

①ストレートアスファルト

		常温時(固体状態)	加熱溶融時(液体状態)
国際規格	国連番号	なし	UN 3257
	品名(国連輸送名)	なし	ELEVATED TEMPERATURE LIQUID, N.O.S., AT OR ABOVE 100 C AND BELOW ITS FLASH POINT (INCLUDING MOLTEN METALS, MOLTEN SALTS, ETC.)
	国連分類(輸送における危険有害性クラス)	該当しない	9
	副次危険	該当しない	なし
	容器等級	該当しない	II
	その他の安全対策	なし	輸送は通常、ローリーによる溶融液体なので、火傷しないように注意する。
国内規制	海上規制情報	船舶安全法:加熱溶融時は引火性液体類に該当。 常温時は非危険物。	
	航空規制情報	航空法:加熱溶融時は引火性液体に該当。常温時は非危険物。	
	陸上規制情報	消防法 指定可燃物(3,000kg 以上の場合)	
特別な安全上の対策		移送時に容器イエローカードの保持が必要。	
その他(一般的)注意		なし	
緊急時応急措置指針番号		130 ^{s)}	

②ストレートアスファルト(中温化)

- 国内規制:
- 陸上:

海上:

航空:
- ・下記、輸送に関する国内法規制に該当するため、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

・消防法 指定可燃物(3,000kg 以上の場合のみ)

・船舶安全法 加熱溶融時は引火性液体類に該当。
常温時は非危険物。

・航空法 加熱溶融時は引火性液体類に該当。
常温時は非危険物。

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

国際規制:

- | | |
|----------------------|--|
| 国連番号: | ・加熱熔融時は UN1999、常温時はなし |
| 品名(国連輸送名): | ・加熱熔融時は TARS, LIQUID, including road oils, and cutback bitumens、常温時はなし |
| 国連分類: | ・加熱熔融時は 3、常温時は該当しない |
| 容器等級: | ・加熱熔融時は II、常温時は該当しない |
| 追加の規制: | ・現在のところ有用な情報はなし。 |
| 輸送又は輸送手段に対する特別の安全対策: | ・安全対策および条件: 輸送は通常ローリーによる熔融液体であるため、火傷しないように注意して取り扱う。 |

③炭酸カルシウム

国内規制

- | | |
|----|----------|
| 陸上 | 法規に該当しない |
| 海上 | 法規に該当しない |
| 航空 | 法規に該当しない |

特別の安全対策	輸送に際し、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないよう積み込み荷崩れ防止を確実に行う。
---------	--

15. 適用法令

該当法令の名称およびその法令に基づく規制に関する情報

①ストレートアスファルト

- | | |
|-----------------------|--|
| 労働安全衛生法 | 令第 18 条(表示対象物)及び令第 18 条の 2(通知対象物) アスファルト
則第 594 条の 2(皮膚等障害化学物質等) アスファルト |
| 化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法) | 非該当 |
| 毒物及び劇物取締法 | 対象物でない |
| 化審法 | 既存化学物質(MITI 番号: 9-1720) |
| 消防法 | 3,000kg 以上の場合、指定可燃物 |
| 大気汚染防止法 | 一定規模以上のアスファルトプラントは「ばい煙発生施設」に該当 |
| 水質汚濁防止法 | 油分排出規制 |
| 水道法 | 水質基準項目、管理目標設定項目および要検討項目に非該当 |
| 下水道法 | 鉱油類排出規制 |
| 海洋汚染防止法 | 油分排出規制 |
| 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 | 産業廃棄物規則 |
| 船員法 | 船員労働安全衛生規則 |

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

②ストレートアスファルト(中温化)

労働安全衛生法:	表示対象物(通知対象物) アスファルト
消防法:	3,000kg以上の場合、指定可燃物
大気汚染防止法:	一定規模維持のアスファルトプラントは「ばい煙発生施設」に該当
水質汚濁防止法:	油分排出規制
水道法:	水質基準項目、管理目標設定項目および要検討項目に非該当
下水道法:	鉱油類排出規制
海洋汚染防止法:	油分排出規制
廃棄物の処理及び清掃に関する法律:	産業廃棄物規則
船員法:	船員労働安全衛生規則

③炭酸カルシウム

食品添加物公定書(食品衛生法)に記載されている。

16. その他情報

[注意]本 SDS は JIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。

引用文献

- 後藤、稗ほか:産業中毒便覧(増補版) 医歯薬出版(1981)
- ACGIH(2021) Threshold limit values and biological exposure indices.
- CONCAWE product dossier no. 92/104 “bitumens and bitumen derivatives”
- IARC(1985) Monographs on the evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to humans. Vol.35, SUPPLEMENT 7
- 危険物・毒物処理取扱いマニュアル(海外技術資料研究所 1974 年 4 月)
- 化学物質の危険・有害便覧(平成 10 年版) 中央労働災害防止協会(1998)
- 危険物船舶運送便覧(船積危険物研究会 1997 年 3 月)
- 化審法化学物質改訂第 5 版 化学工業日報社(2002)
- 許容濃度等の勧告(2021 年度) 日本産業衛生学会 産業衛生学雑誌
- EC 理事会指令「67/548/EEC」 付属書 I 「危険な物質リスト」
- API “ROBUST SUMMARY OF INFORMATION ON ASPHALT”(2003)
- IPCS(Environmental Health Criteria 20, Selected Petroleum Products)
- CONCAWE report no. 01/54 environmental classification of petroleum substances summary data and rationale
- 作業環境測定法施行規則の一部を改正する省令(厚生労働省 2020 年 1 月 27 日)
- IARC(2013) Monographs on the evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to humans. Vol.103.
- ACGIH (7th, 2001)
- WHO/IPC 『国際簡潔評価文書(CICAD)』 Vol.59 (2005)
- ドイツ学術振興会(DFG) “Occupational Toxicants Critical Data Evaluation for MAK Values and Classification of Carcinogens” Vol.17
- 日本規格協会: ERG 2020 版 危険物輸送のための緊急時応急措置指針 容器イエローカードへの適用
- 製品安全データシートの作成指針(日本化学工業協会)
- 化審法化学物質 第 5 版(化学工業日報社)
- 屋外作業場等における作業環境管理に関するガイドライン

安全データシート (SDS)

製品名: 新規アスファルト混合物

その他の略語の全文

AICS－オーストラリア化学物質インベントリー； ANTT－ブラジル国家輸送機関； ASTM－米国材料試験協会； bw－体重；
CMR－発がん性、変異原性、生殖毒性があるとされる物質； CPR－管理製品規則； DIN－ドイツ規格協会基準； DSL－国内
物質リスト(カナダ)； ECx－任意の X%の反応を及ぼすと考えられる濃度； ELx－任意の X%の反応を及ぼすと考えられる負
荷割合； EmS－緊急時のスケジュール； ENCS－化審法の既存化学物質リスト； ErCx－任意の X%の反応を及ぼすと考えら
れる成長率； ERG－緊急対応の手引き； GHS－世界調和システム； GLP－試験実施規範； IARC－国際がん研究機関；
IATA－国際航空運送協会； IBC－危険化学品のばら積み運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規格； IC50－
50%阻害濃度； ICAO－国際民間航空機関； IECSC－中国現有化学物質名録； IMDG－国際海上危険物規程； IMO－国際
海事機関； ISHL－労働安全衛生法(日本)； ISO－国際標準化機構； KECI－韓国既存化学物質名録； LC50－50%致死濃
度； LD50－50%致死量(半数致死量)； MARPOL－船舶による汚染の防止のための国際条約； n. o. s.－他に規定のない
限り； Nch－チリ規則； NO(A)EC－無有害性影響濃度； No(A)EL－無有害性影響レベル； NOELR－無有害性影響負荷割
合； NOM－メキシコ公式規則； NTP－米国国家毒性プログラム； NZIoC－ニュージーランド化学物質台帳； OECD－経済協
力開発機構； OPPTS－化学物質安全性・公害防止局； PBT－難分解性・生体蓄積性・有害性(物質)； PICCS－フィリピン
化学物質インベントリー； (Q)SAR－(定量的)構造活性相関； REACH－化学物質の登録、評価、認可および登録(REACH)
に関する規則(EC) No 1907/2006； SADT－自己加速分解温度； SDS－安全データシート； TCSI－台湾化学物質インベン
トリー； TDG－危険物輸送； TSCA－有害物質規制法(米国)； UN－米国； UNRTDG－国際連合危険物輸送勧告； vPvB
－非常に難分解及び非常に高蓄積性； WHMIS－作業場危険有害性物質情報システム

作成履歴:

2018 年 7 月 1 日 作成

2022 年 9 月 6 日 改訂

2024 年 6 月 10 日 改訂

製品安全性データシートの記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見の発表や従来の説
の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられ
ることをお勧めします。なお、含有物・物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また注意事項は、通常の取扱いを対
象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途、用法に適した安全対策を実施の上ご利用ください。記載内容は情報の提供
であって、保証するものではありません。